



第17期 2020年3月期 第2四半期

決算説明会

2019年11月15日



デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO.,LTD.

〈東証1部 証券コード：3392〉



会社概要



1 : 会社概要

2 : 2020年 3 月期第2四半期決算
業績説明

3 : 2020年 3 月期第2四半期決算
トピックス・今後の展開



会社概要

Delica Foods
Group



商 号	デリカフーズホールディングス株式会社
創 業	昭和54年（名古屋）
代 表 者	代表取締役社長 大崎 善保
証券コード	3392（東証1部）
所 在 地	東京都足立区六町4-12-12
資 本 金	1,377,113千円
事 業 内 容	青果物流通業
従 業 員 数 （連 結）	549名（他、平均臨時雇用者数 1,831名）※2019年9月30日時点 ＜前期末＞ 492名（他、平均臨時雇用者数 1,700名）





デリカフーズ は、業務用の 八百屋です。

外食・中食・コンビニエンス産業に日本全国・365日
新鮮な野菜とカット野菜をお届けしています。

デリカフーズ は、
農と健康 を繋ぐ 創造企業です。

日本農業の発展、国民の健康増進に貢献すべく、
青果物の新たな価値を創造する研究・提案企業です。

デリカフーズグループの体制

Delica Foods
Group



デリカフーズホールディングス株式会社

デリカフーズ株式会社



青果物商社



エフエスロジスティクス(株)



物流事業



(株)メディカル青果物研究所



食品の分析事業



デザイナーフーズ(株)



抗酸化研究、
コンサル事業



デリカフーズ北海道(株)



青果物商社



NEW!

2019年11月1日

新連結子会社 デリカフーズ北海道!!

業務内容（仕入から配送へ）

Delica Foods
Group



仕入

加工

物流

厳選された
契約農家



大学機関
(大学院)

安定供給
(大量購入)

情報提供
外食・中食の
ニーズ

業務提携
共同開発

デリカフーズグループ

チルド配送



ホール野菜

カット野菜



真空加熱野菜



研究開発



必要な時に
必要な分だけ

安定的な
価格

野菜に関する
情報提供

情報提供
(ニーズ)

業務支援
サービス

ファミリー
レストラン
など外食

売上高構成比
82.1%

コンビニ、
給食など中食

売上高構成比
17.9%

※2019年3月期時点

研究・開発

取り扱い商品

Delica Foods
Group



		シェア	売上高
ホール野菜		46.8%	18,399百万円
カット野菜		40.6%	16,276百万円
その他 (日配品)		11.8%	4,439百万円
真空加熱野菜		0.8%	332百万円

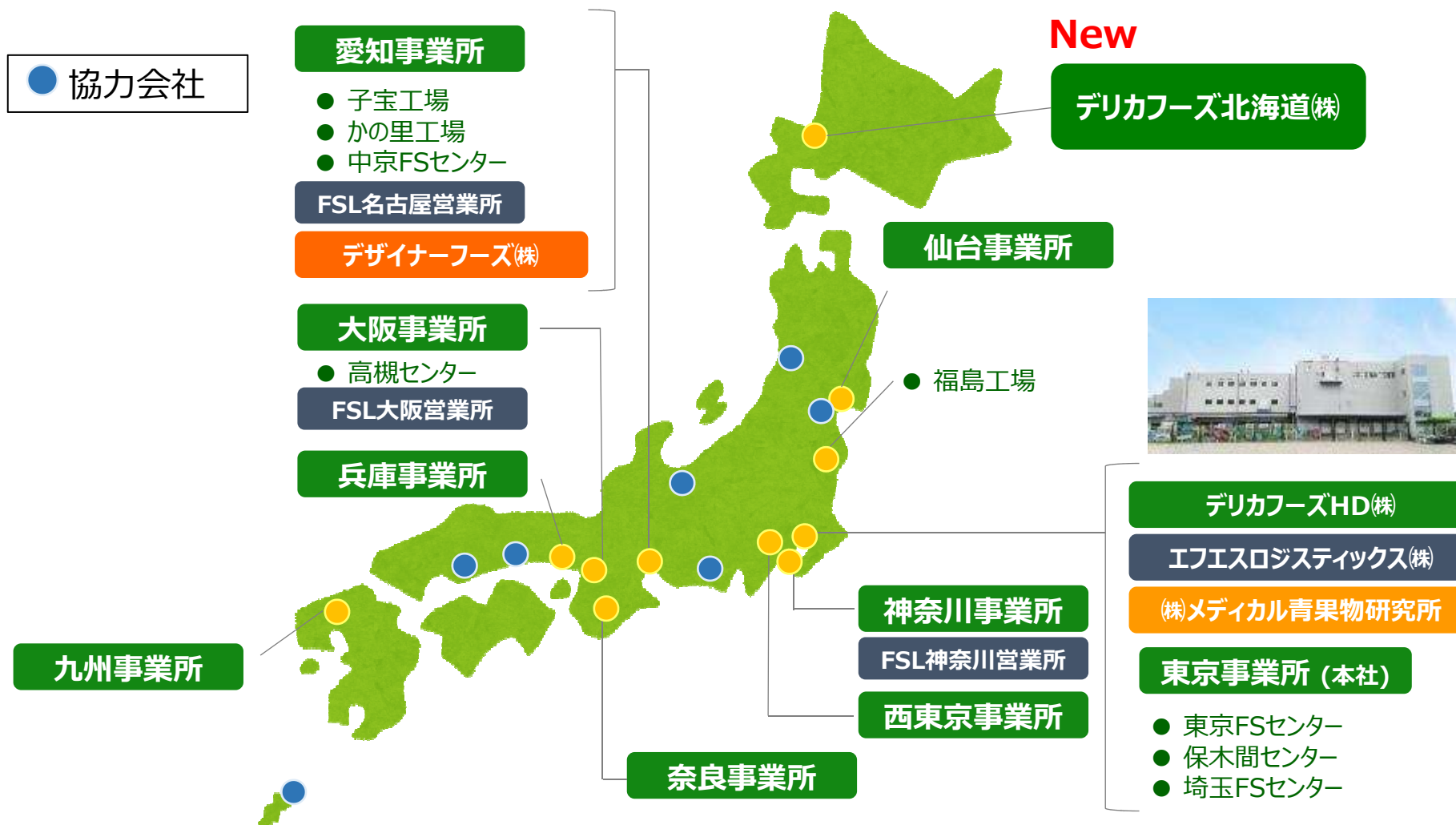
※2019年3月期時点

全国に広がるチルド配送網

Delica Foods
Group



直営16拠点とエリア協力企業で日本全国 2万8千店舗へデリバリー





2020年3月期 第2四半期決算 業績説明



1 : 会社概要

2 : 2020年3月期第2四半期決算 業績説明

3 : 2020年3月期第2四半期決算
トピックス・今後の展開



主な経営環境

Delica Foods
Group

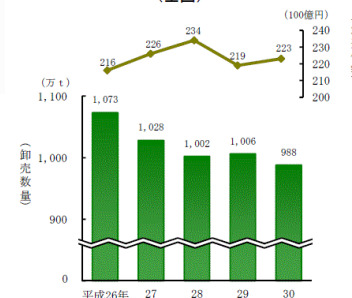


台風・地震等の自然災害影響もあり、個人消費は横ばい。米国の保護主義的な通商政策を取り巻く世界情勢にて、企業業績もピークアウト→景気の先行きは不確実性が存在

食品関連業界

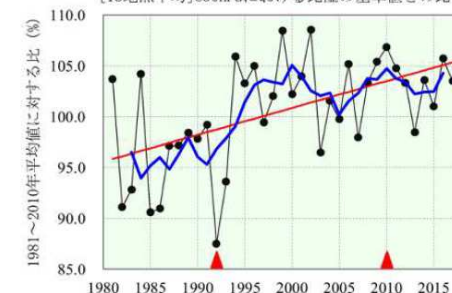
- 消費者の「食の安全・安心意識の高まり」
- 人材不足の深刻化・物流コストが上昇

図1 野菜の卸売数量及び卸売価額の推移
(全国)



平成31年4月24日
農林水産省 大臣官房統計部
農林水産統計より

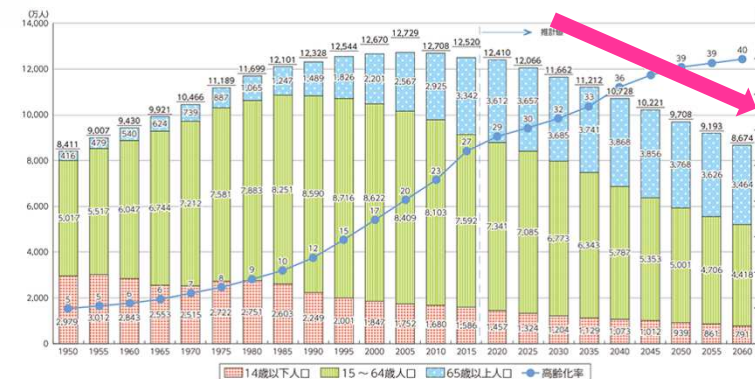
[13地点平均]850hPaにおける比湿の基準値との比(7月)



平成30年8月10日
気象庁 報道発表 別紙より

青果物業界

- 地球温暖化により、青果物の生育に重大な影響を及ぼす酷暑・豪雨・台風等の異常気象が恒常化
- また、10月まで台風被害等の影響が出ている状況



総務省 我が国の人口の推移

2020年3月期第2四半期

1Q → 2Q

Delica Foods
Group



連結業績結果

過去最高の第2四半期累計売上高を達成

	2019年 3月期 第2四半期	2020年 3月期 第2四半期	増減額	増減率
(単位：百万円)				
売上高	19,460	20,429	+968	+5.0%
営業利益	235	342	+106	+45.0%
経常利益	275	373	+98	+35.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	147	233	+86	+58.7%
1株当たり 四半期純利益（円）	10.00	15.86	+5.86	—

2020年3月期

計 画

Delica Foods
Group



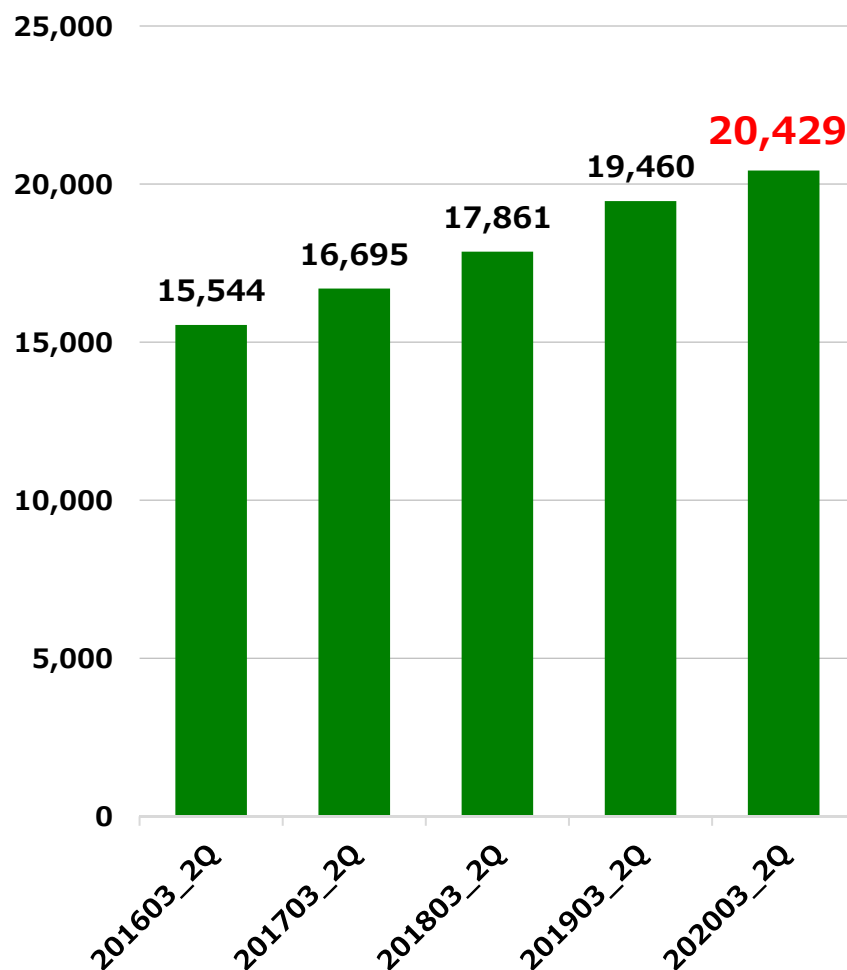
連結業績計画

(単位：百万円)	2019年 3月期 通期実績	2020年 3月期 通期計画	増減額	増減率
売上高	39,448	41,000	+1,551	+3.9%
営業利益	685	915	+229	+33.4%
経常利益	761	1,000	+238	+31.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	459	625	+165	+36.0%
1株当たり 当期純利益（円）	31.18	42.38	+11.21	—



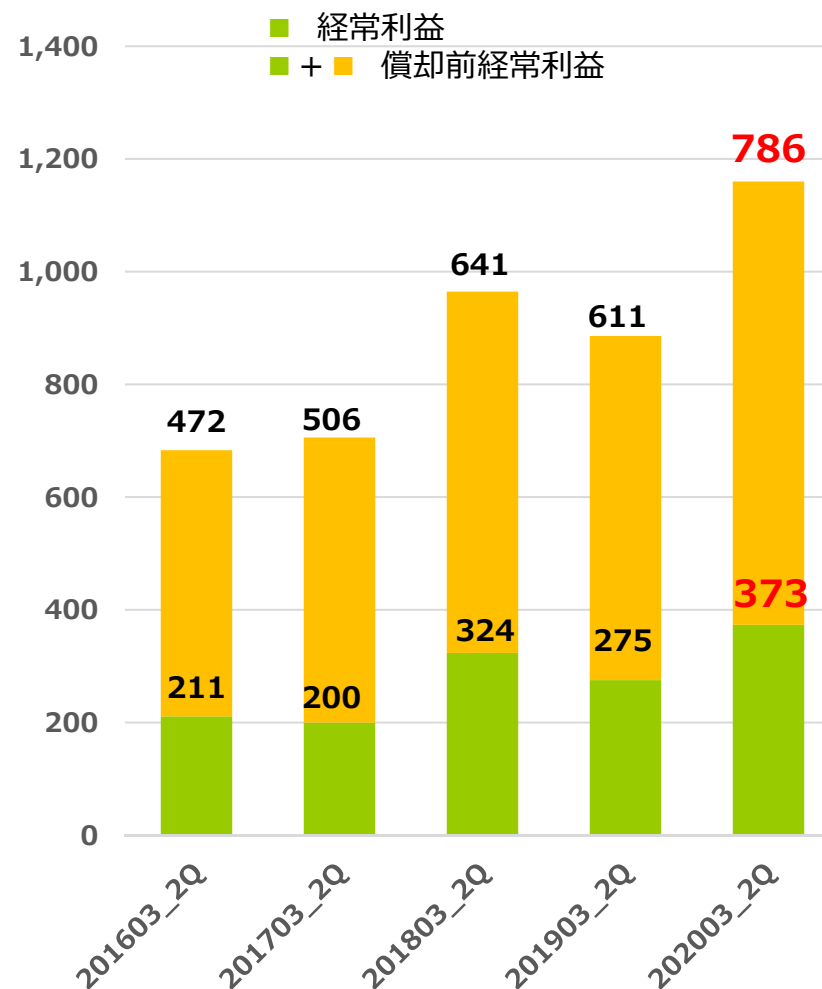
売上高

(単位：百万円)



経常利益

(単位：百万円)

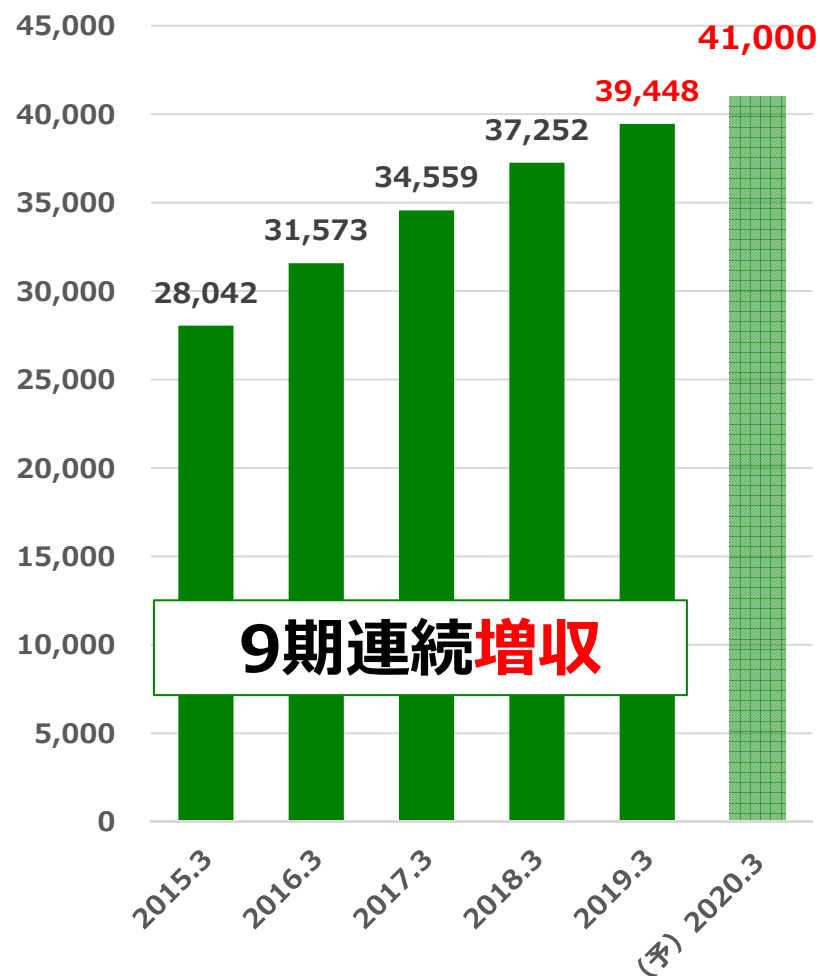




過去5年間推移

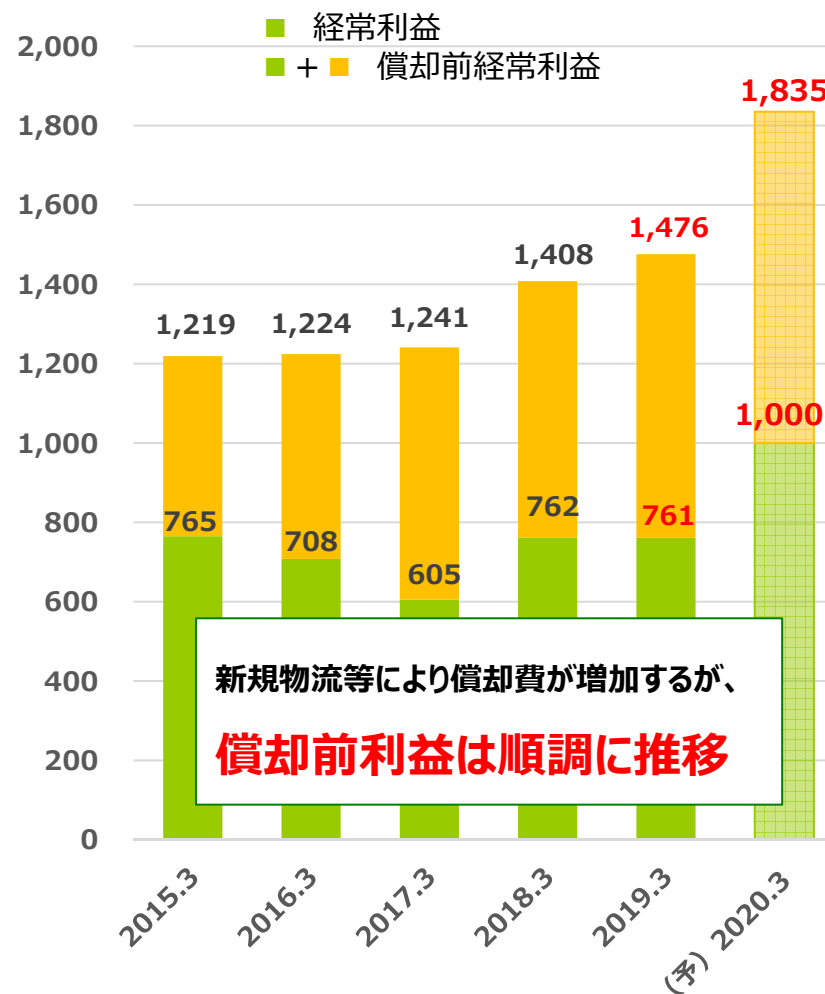
売上高

(単位：百万円)



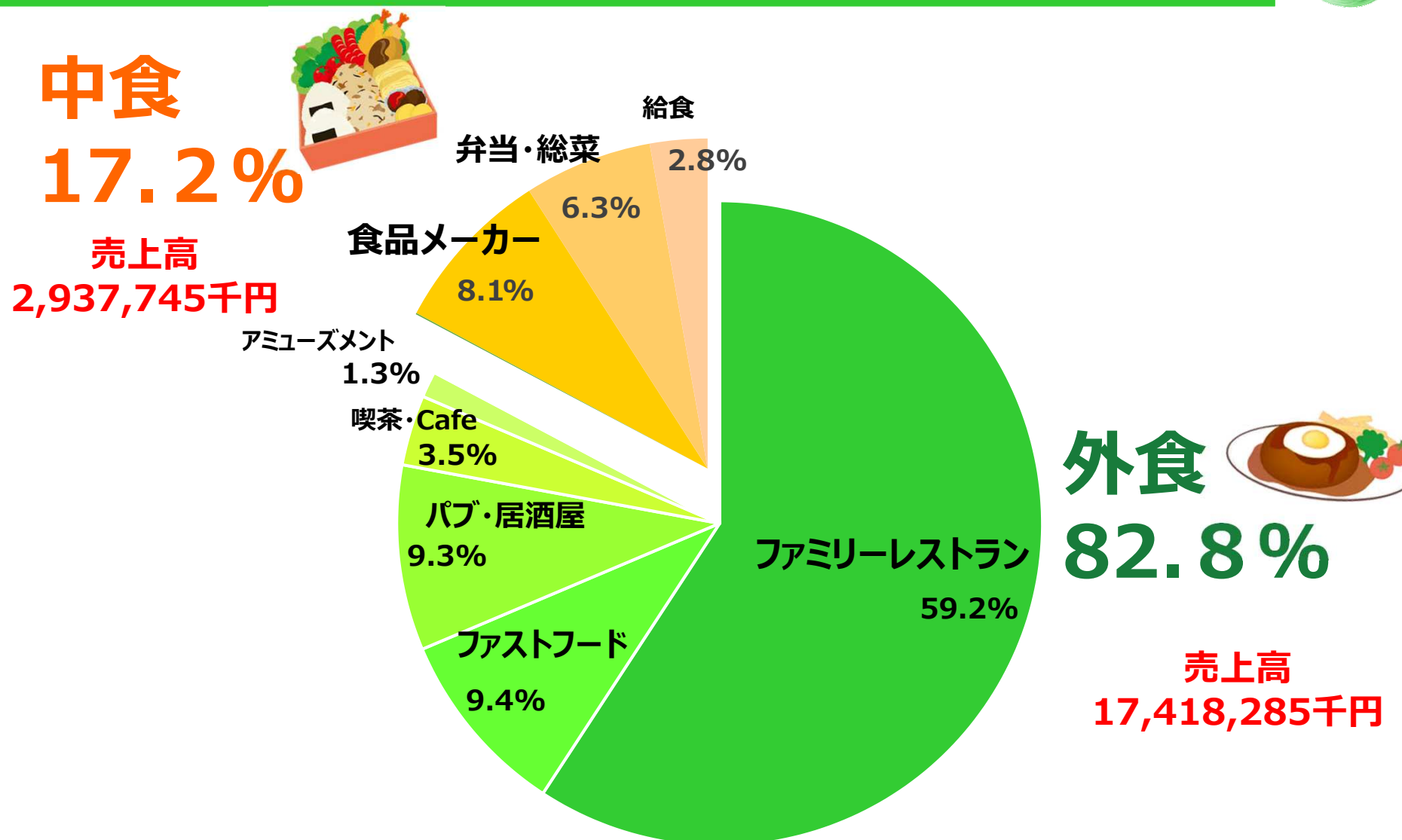
経常利益

(単位：百万円)





業態別売上高の状況



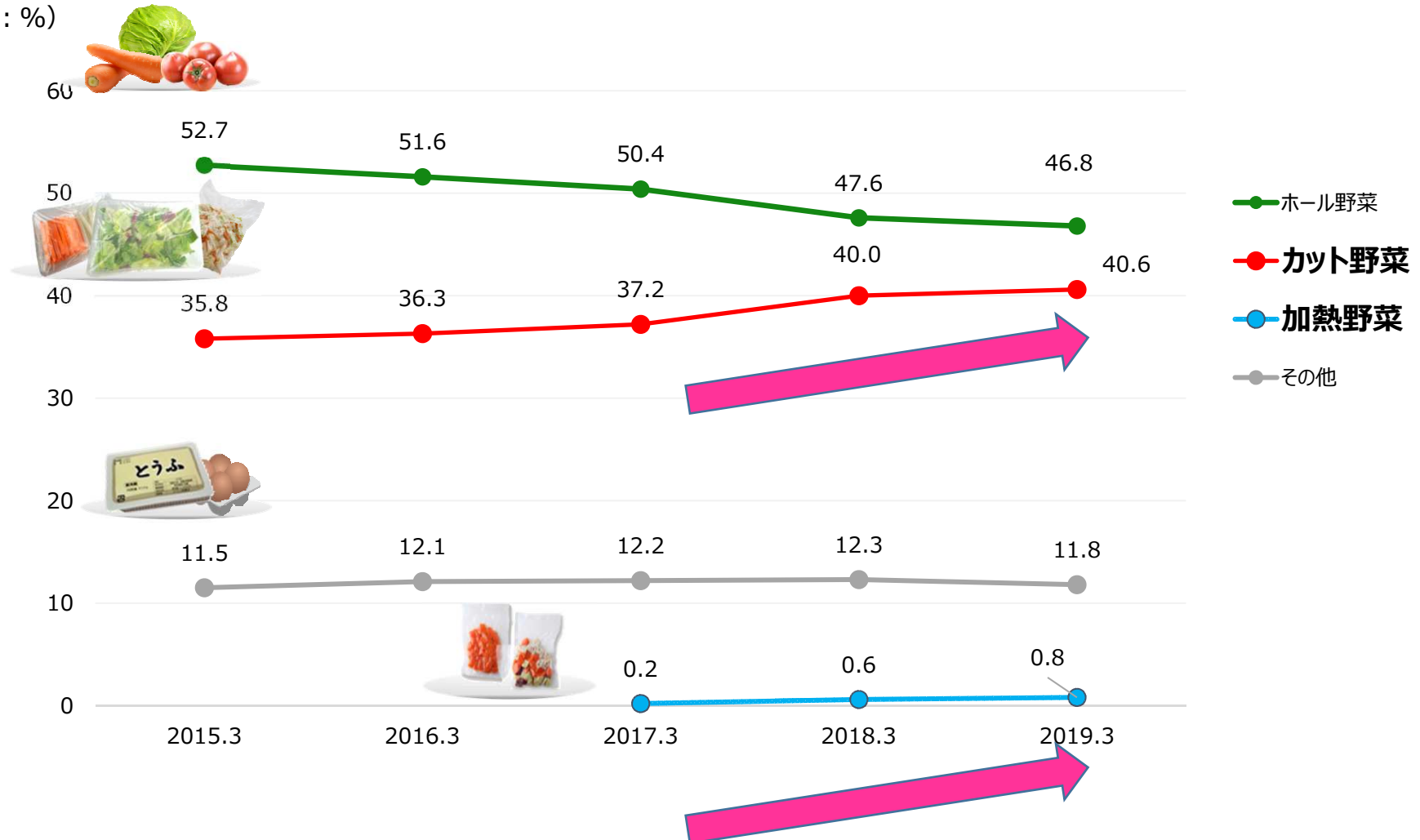
部門別売上構成比の推移

前期

Delica Foods
Group



(単位：%)



人材不足の影響により**加工度の高い商品**の需要が伸びている



2020年3月期 第2四半期決算 トピックス・今後の展開



1 : 会社概要

2 : 2020年 3 月期第2四半期決算
業績説明

**3 : 2020年 3 月期第2四半期決算
トピックス・今後の展開**



デリカフーズ北海道(株)グループ入り

Delica Foods
Group



2019年11月

株式会社大藤大久保商店（札幌市）の全株式を取得し、100%孫会社化
社名を **デリカフーズ北海道(株)** として、デリカフーズグループの一員となりました。



2019年10月3日リリース
「株式の取得（孫会社化）に関する基本合意書締結のお知らせ」
2019年11月1日リリース
「株式会社大藤大久保商店の株式取得及び社名変更に関するお知らせ」

九州FSセンター（仮称）建設中

Delica Foods
Group



2020年3月31日竣工予定



2019年10月

COMING SOON

- ・九州地区初のFSセンター
加熱野菜製造も可能
- ・省人化、自動化ラインの導入
- ・福岡県2大都市をカバー（福岡市、北九州市）
- ・九州地区の広大な産地との連携拡大

売上規模

約45億円/年

投資額

約23億円

敷地面積

1,678坪 (5,550㎡)

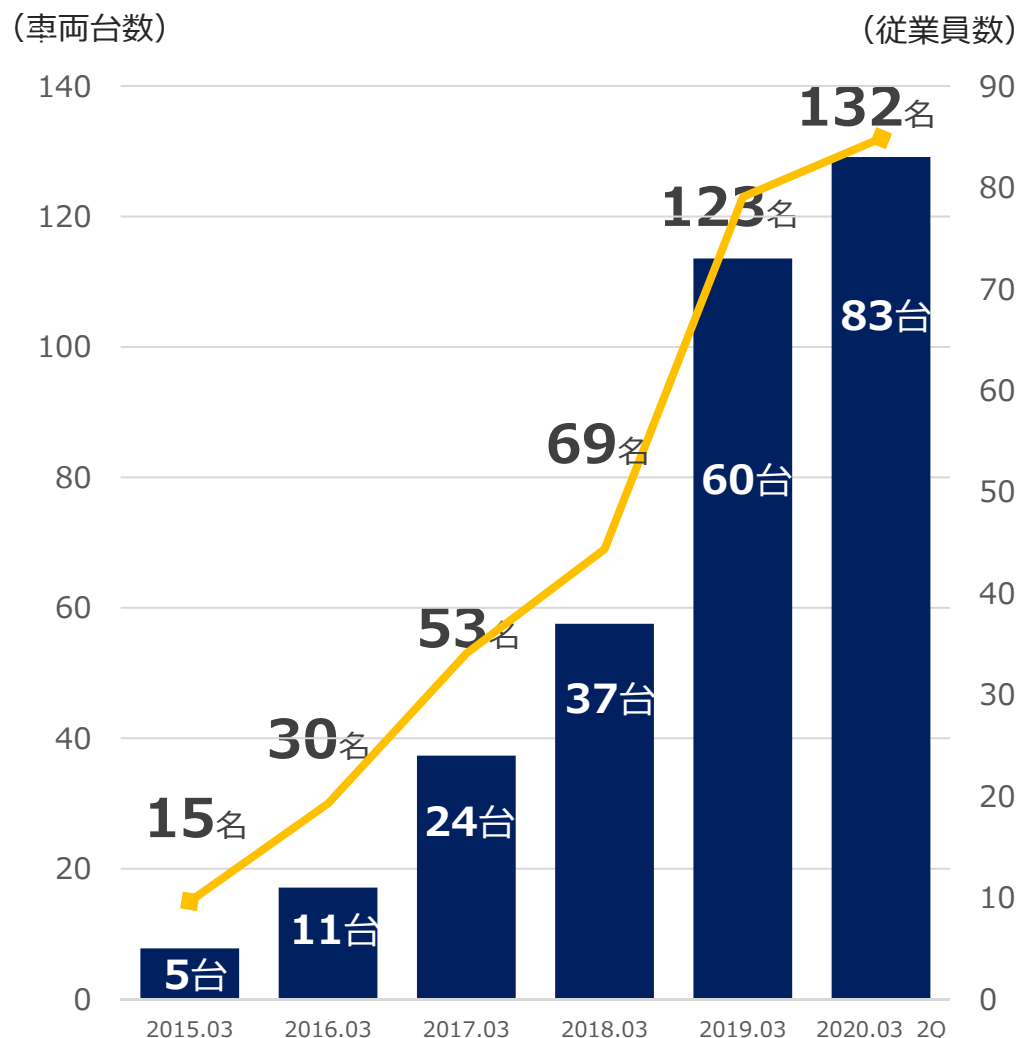


エフエスロジスティクス(株)拡大中

Delica Foods
Group



従業員数・車両台数推移



沿革



- 2015年10月事業開始
- 2017年4月名古屋営業所開設
- 2018年4月神奈川営業所開設
- 2018年10月大阪営業所開設

COMING SOON

2020年
九州事業所開設予定



商品ラインナップ



Delica Foods
Group



① 平日おねうち便

比較的に物量の少ない平日ビンの空きスペースを利用し野菜以外の商品をお値打ちにお届けします。



② 幹線あいのり便

東京、名古屋、大阪間で大型幹線便を運行しています。
この物流網を最大限に利用し安くお届けします。



③ 資材おたすけ便

衛生用品等の資材を野菜と一緒にお届けすることで
宅急便などの費用が削減されコストカットが期待できます。



新たな青果物流通インフラの展開

Delica Foods
Group



インフラの構築＋貯蔵流通拠点の設置

2017年10月	大阪高槻センター	貯蔵能力	100パレット
2018年 5月	中京センター	貯蔵能力	300パレット
2018年12月	埼玉八潮センター	貯蔵能力	350パレット



研究部門の取り組み

(株)ディール青果物研究所 デザイナーフーズ(株)

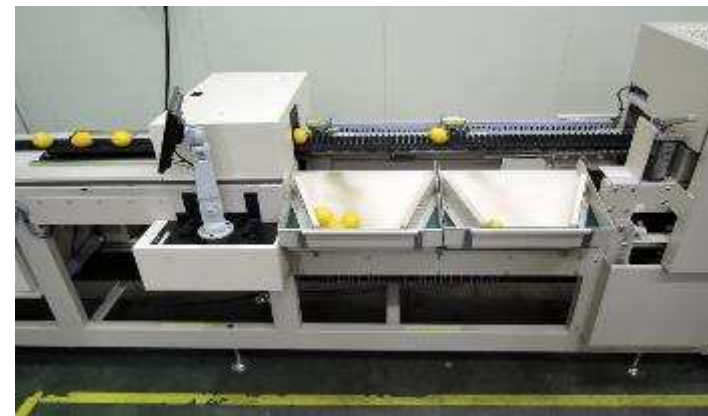
Delica Foods
Group



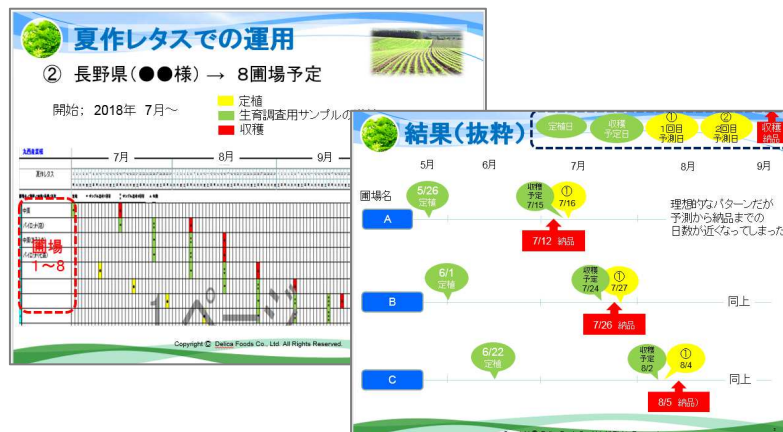
ISO17025認証取得



レモン非破壊選別装置 現場導入・運用開始



収量予測システム検証開始



オーガニックエコフェスタ(年3回)に 参加・評価用青果物の分析



業務提携に関する覚書の締結

Delica Foods
Group



エアウォーター株式会社

2019年5月 業務提携契約締結
原料調達の協業
インフラ事業の協業
外食・中食産業への販売拡大
共同研究及び共同開発

JA全農

2018年3月 業務提携契約締結
国内契約産地づくり
インフラ・物流網の共同利用
共同商品開発

株式会社農業総合研究所 Nousouken Corporation

2017年10月 業務提携契約締結
契約農家の共有及び共同調達
全国物流センターの共有
情報及びデータの共有

**Delica Foods
Group**



第三次中期経営計画 3年目実行計画

Delica Foods
Group



計画実行期間： 2019年4月1日～2020年3月31日

中京地区の営業強化
中京FSセンター及び拡張済子宝工場のフル稼働化

第一四半期中



エフエスロジスティクス九州営業所の開設

3月31日

九州事業所新工場の開設準備

3月31日

エア・ウォーター株式会社との業務提携内容の具体化

3月31日

R & D部門の再編成および新規研究開発の開始

3月31日

2019年9月1日より普通株式を分割

Delica Foods
Group



2019年9月1日付をもって、 普通株式1株を2株に分割いたしました

当期の株価および出来高の推移



株主優待の変更

Delica Foods
Group



ご優待品



野菜・果物の詰合わせ またはクオカード を選択

保有株式数	優待内容
100株以上200株未満	500円分のクオカード
200株以上300株未満	1,000円相当のこだわり野菜の詰合わせまたは、1,000円分のクオカード
300株以上400株未満	1,500円相当のこだわり野菜・果物・加工品の詰合わせまたは、1,500円分のクオカード
400株以上500株未満	2,000円相当のこだわり野菜・果物・加工品の詰合わせまたは、2,000円分のクオカード
500株以上1,000株未満	3,000円相当のこだわり野菜・果物・加工品の詰合わせまたは、3,000円分のクオカード
1,000株以上	5,000円相当のこだわり野菜・高級果物の詰合わせまたは、5,000円分のクオカード

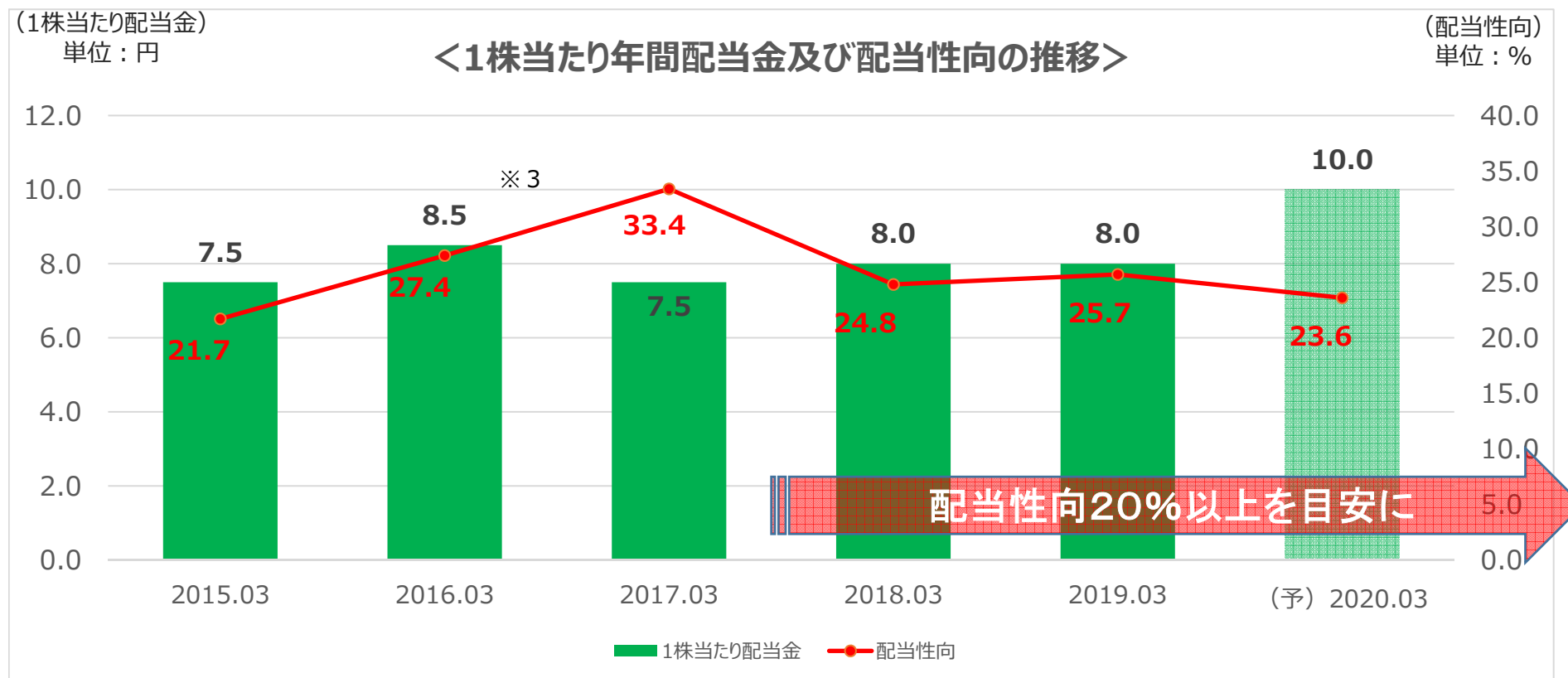


長期保有優遇株主優待

対象条件	長期優遇優待の内容
3年以上継続して 2,000株以上4,000株未満保有	上記通常の株主様優待に加え、2,000円相当の野菜・果物を使用した加工品を贈呈。
3年以上継続して 4,000株以上保有	上記通常の株主様優待に加え、4,000円相当の野菜・果物を使用した加工品を贈呈。

配当金及び配当性向の推移

Delica Foods
Group



※ 1 2013年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を実施したことにより、
2013年3月期期首に当該株式分割が行なわれたと仮定し、1株当たり配当金を算定しております。

※ 2 2019年9月1日付で株式1株につき2株の株式分割を実施したことにより、
2013年3月期期首に当該株式分割が行なわれたと仮定し、1株当たり配当金を算定しております。

※ 3 2016年3月期 配当金の内訳 普通配当7円50銭 記念配当1円00銭（東証一部指定記念配当）

**デリカフーズグループは
これからも全てのステークホルダーから
評価される企業を目指して参ります。**

当資料取り扱い上の注意点

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。当社または当社の経営者は将来の結果についての期待または確信を述べていますが、その期待や確信、あるいはそれに近い結果が実際に達成されるという保証はありません。

また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。

(本件についてのご連絡先)

デリカフーズホールディングス株式会社

TEL03 (3858) 1037 FAX03 (5851) 1056



Appendix



BS及びCF

(百万円)

	2019年3月期 第2四半期末 実績	2020年3月期 第2四半期末 実績	差額
流動資産	8,500	8,683	182
固定資産	10,789	12,626	1,836
資産合計	19,290	21,309	2,019
流動負債	5,794	5,209	△ 585
固定負債	5,933	8,128	2,195
負債合計	11,728	13,337	1,609
純資産額	7,562	7,972	409
自己資本額	7,562	7,972	409
自己資本比率	39.2%	37.4%	-1.8%
負債純資産合計	19,290	21,309	2,019

(百万円)

	2019年3月期 第2四半期末 実績	2020年3月期 第2四半期末 実績	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	269	1,059	790
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 859	△ 1,503	△ 644
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 170	1,159	1,330
現金及び現金同等物の増減額	△ 760	716	1,476
現金及び現金同等物期末残高	3,161	3,566	405



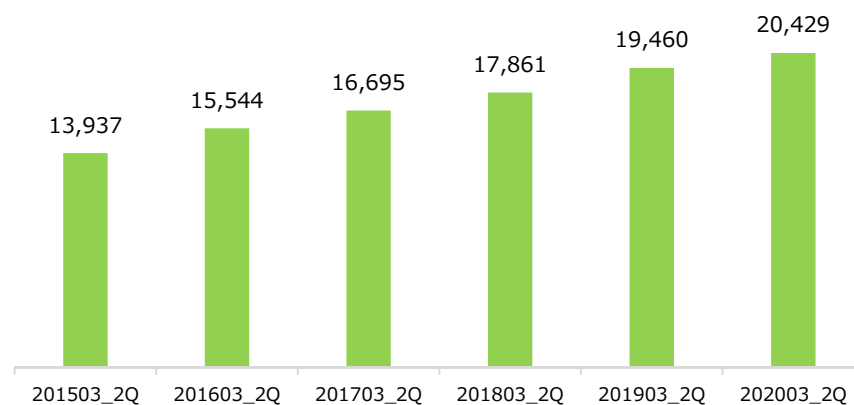
(百万円)

	2019年3月期 第2四半期累計 実績	2020年3月期 第2四半期累計 実績	増減額	増減率
売上高	19,460	20,429	968	5.0%
売上原価	14,994	15,758	764	5.1%
売上原価率	77.1%	77.1%	—	—
売上総利益	4,465	4,670	204	4.6%
売上総利益率	23.0%	22.9%	—	—
販売費及び一般管理費	4,229	4,328	98	2.3%
販管費率	21.7%	21.2%	—	—
営業利益	235	342	106	45.0%
営業利益率	1.2%	1.7%	—	—
経常利益	275	373	98	35.6%
経常利益率	1.4%	1.8%	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	147	233	86	58.7%
親会社株主に帰属する当期純利益率	0.8%	1.1%	—	—
設備投資額	863	1,520	657	76.1%
減価償却費	335	413	77	23.2%
EBITDA (経常利益 + 減価償却費)	610	786	175	28.8%

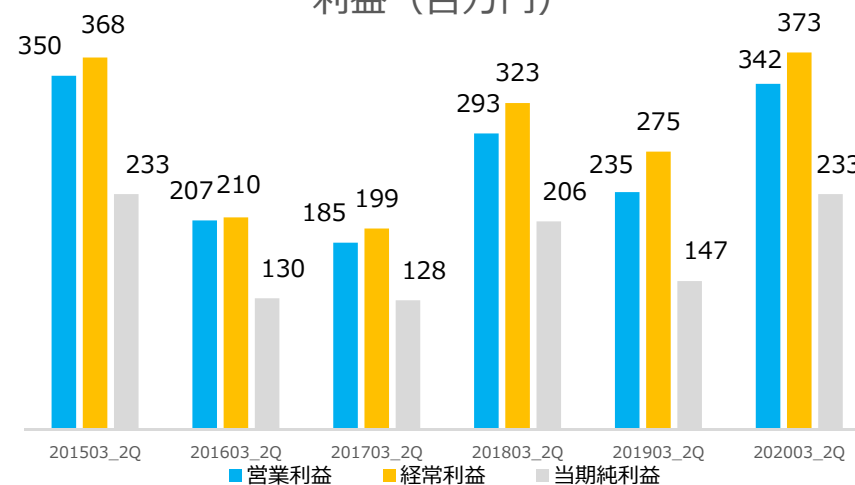
財務ハイライト①

1Q → 2Q

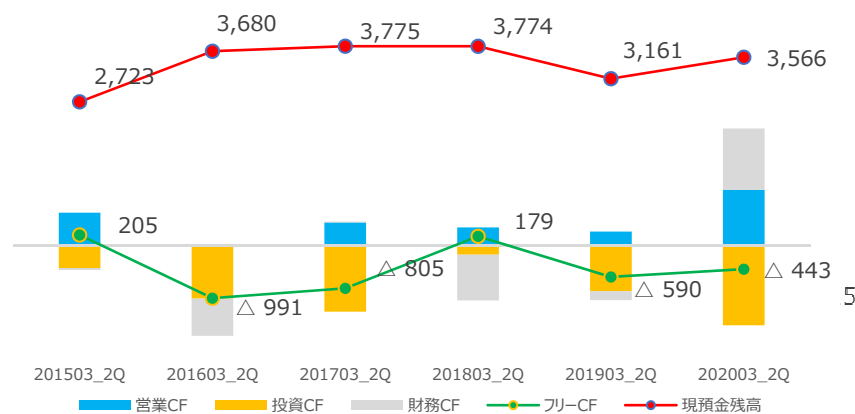
売上高（百万円）



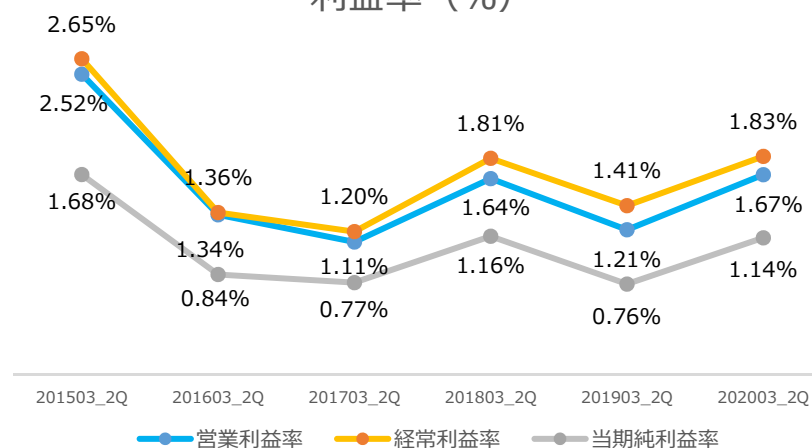
利益（百万円）



キャッシュ・フロー（百万円）



利益率（%）

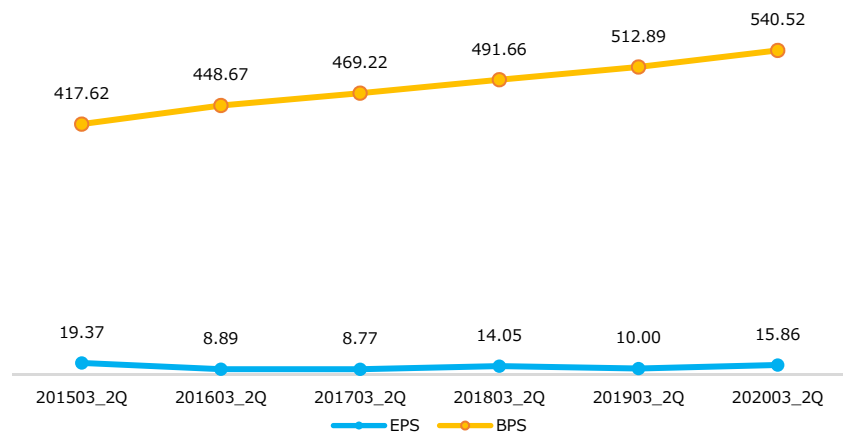


※当期純利益率 = 親会社株主に帰属する当期純利益率

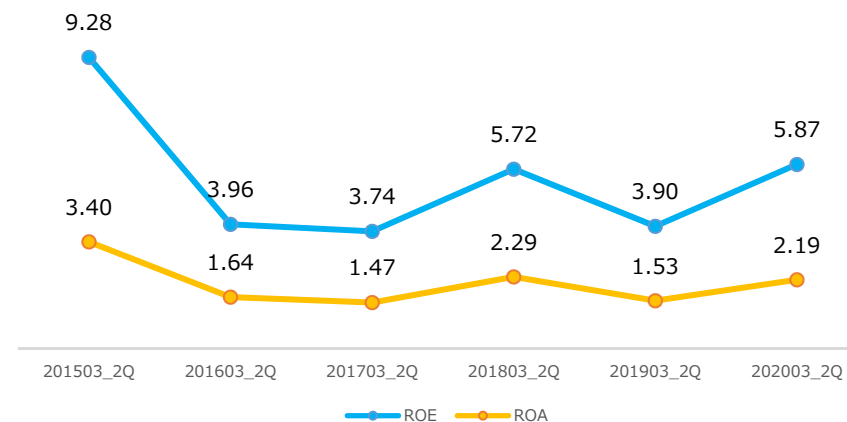
財務ハイライト②

1Q → 2Q

EPS・BPS (円)

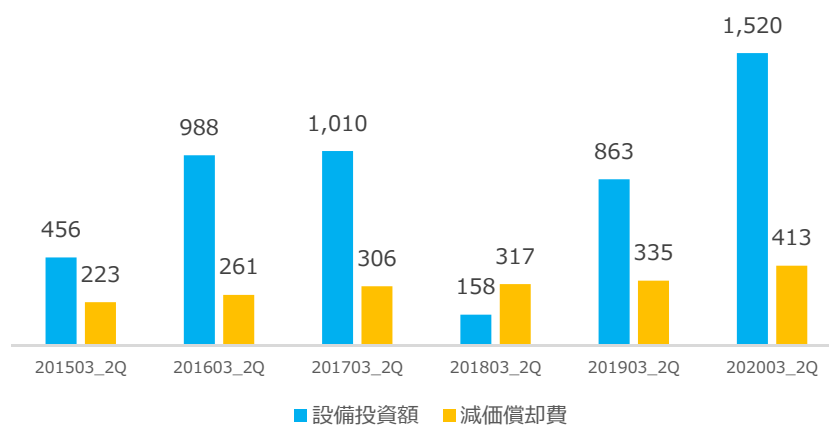


ROE・ROA (%)

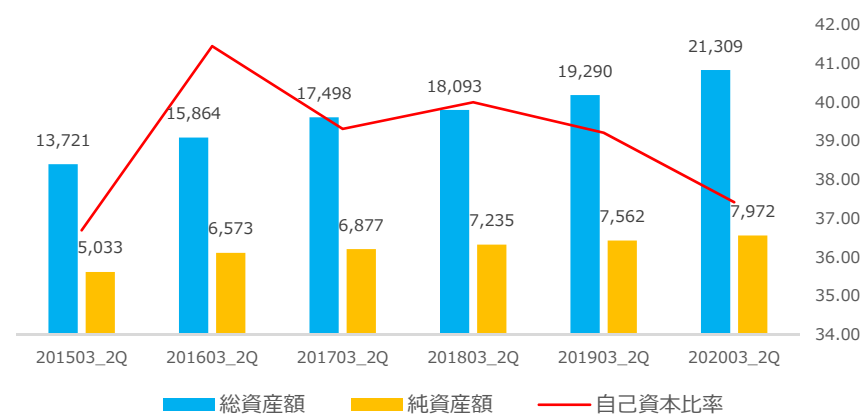


※指標を換算するため、当期純利益を2倍して算出しております

設備投資額及び減価償却費 (百万円)



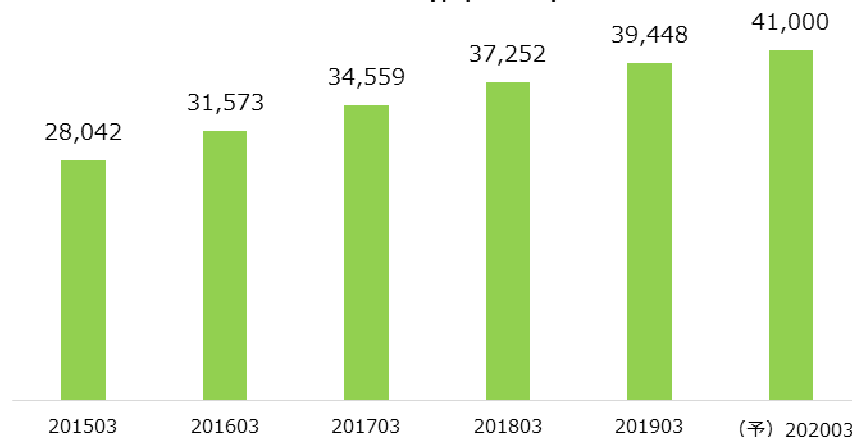
総資産額・純資産額、自己資本比率 (百万円、%)



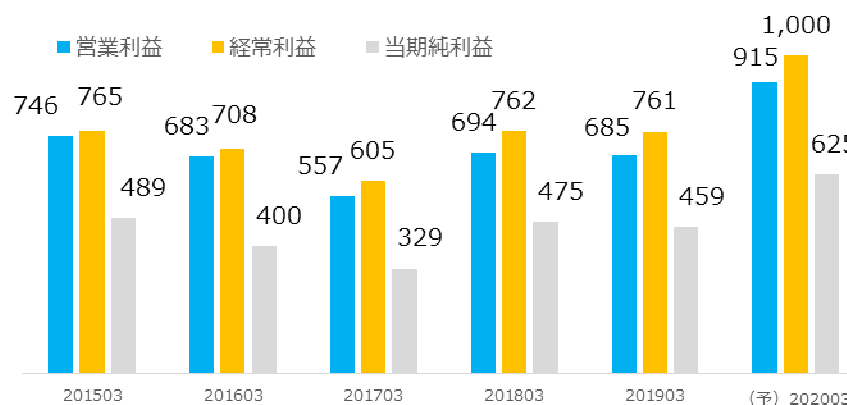
財務ハイライト③

前 期

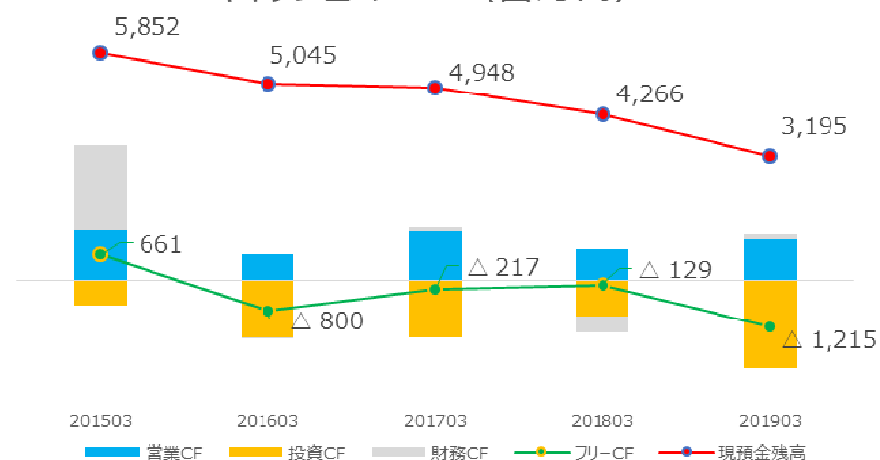
売上高（百万円）



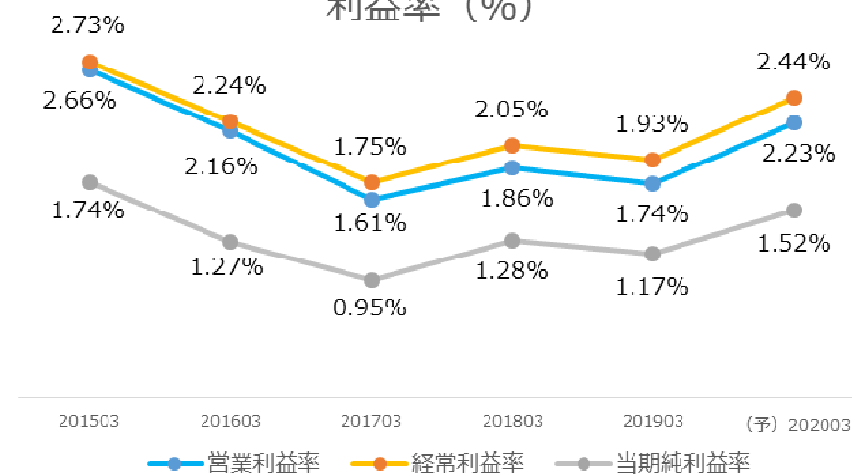
利益（百万円）



キャッシュ・フロー（百万円）



利益率（%）

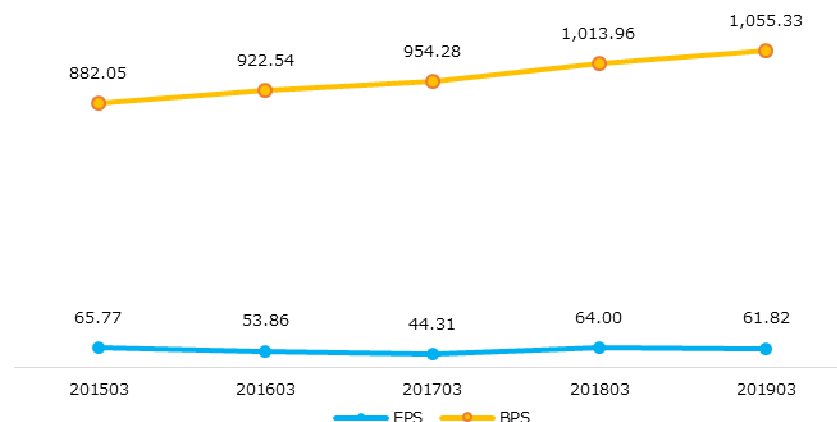


※当期純利益率＝親会社株主に帰属する当期純利益率

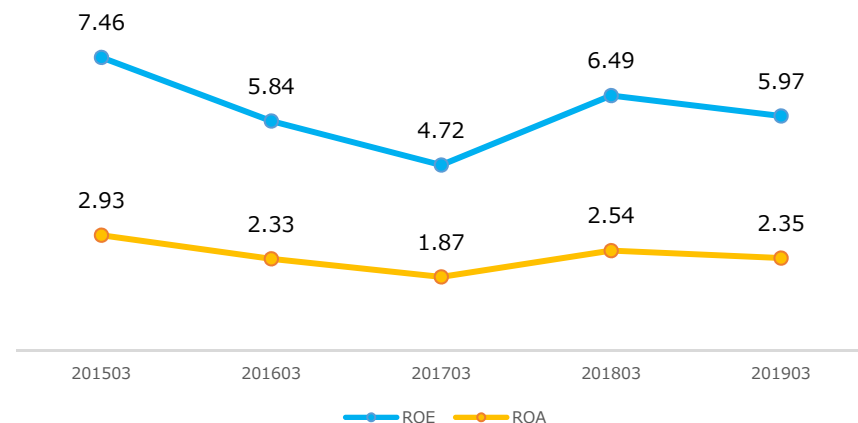
財務ハイライト④

前期

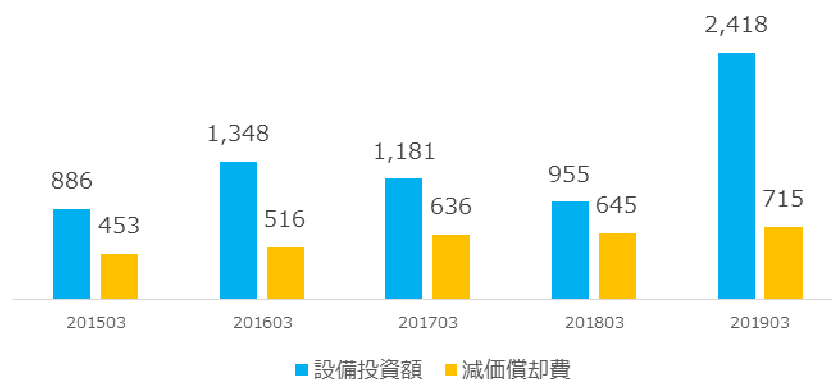
EPS・BPS (円)



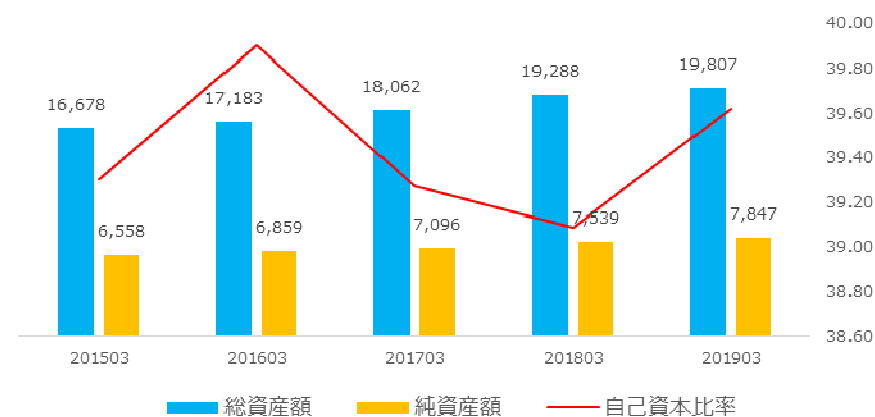
ROE・ROA (%)



設備投資額及び減価償却費 (百万円)



総資産額・純資産額、自己資本比率 (百万円、%)





デリカフーズの インフラ整備

デリカフーズグループでは、
全国に新鮮な青果物を届けるため、
インフラ整備に力を入れております。
各地に広がる拠点や、FSセンターの
つながりを最大限活用し、今後も、
お客様のニーズに対応してまいります。

中京FSセンター (2018年5月稼働)



昨年オープン
の新センターも
順調に稼働中!

埼玉FSセンター (2018年9月稼働)



TOPICS

Company Initiatives

01

エフエスロジスティクス(株)の取り組み

事業領域拡大に向け、2020年に九州営業所を設立予定

エフエスロジスティクス(株)は、2014年
にデリカフーズグループの物流を担う会社
として設立されました。設立時から従業員
数、車両台数は毎年増加しており、規模を拡
大し続けています。2020年には九州営業
所を開業し、関東から九州までの幹線便を
結び見込みです。今後も、青果物の安定供
給に向け邁進してまいります。

【従業員数とトラック台数の推移】



安全優良事業所認定を獲得

エフエスロジスティクス(株)では、2018年12
月に東京営業所で安全性優良事業所認定(G
マーク)を獲得いたしました。Gマークとは、荷
主企業がより安全性の高いトラック運送事業者
を選びやすくすることを目的に、全日本トラック
協会が交付する資格です。今後は他営業所でも
獲得を目指し、事業全体の安全性向上させ
てまいります。



TOPICS

New construction

02 デリカフーズ(株)九州FSセンター

グループの総力を結集したFSセンター

2020年3月31日を竣工予定とし、福岡県宗像市に、全国で19か所目の直営拠点となる、九州FSセンター(仮称)を建設しております。新工場では、青果物の入荷からお客様のもとへ届くまで、すべての作業が4℃以下で行われる「スーパーコールドチェーン」や、オートメーション化による省人製造ラインなど、グループで培った技術やノウハウを活かした、設備・システムを導入する予定です。九州エリアでの事業拡大を図るとともに、今まで以上に高品質で安全・安心な商品の提供を目指してまいります。



建設中の様子

TOPICS

Company expansion

03 デリカフーズ北海道株式会社

営業面・購買面の強化で、新たな利益を創出

北海道札幌市に本社を置く(株)大蔵大久保商店の全株式を取得し、100%孫会社化いたしました。それに伴い、11月1日より同社の社名を「デリカフーズ北海道株式会社」に変更いたしました。

同社は、1962年の設立以来、札幌市および近郊エリアにおける外食・中食産業などで、多くの青果物の納入実績を持ち、信頼を得ている会社です。これまで、パートナー企業として青果物の納入を行っていましたが、孫会社化により、営業面や購買面にてシナジー効果を発揮し、新たな利益創出に寄与いたします。



エア・ウォーター株式会社と業務提携

多彩な事業を展開し、社会や人々の暮らしに貢献する
エア・ウォーター株式会社と、農業・食品関連事業での業務提携をいたしました。
ここでは、同社の沿革や特徴、提携内容を紹介します。

TOPICS

01



AIR WATER INC.

業務提携先のエア・ウォーター株式会社とは、どんな会社？

産業ガス・医療用ガスから始まり、ケミカル、エネルギー、農業・食品、物流、海水と事業を拡大

創業以来、「かけがえない地球の資源を活かして事業を創出し、社会や人々の暮らしに貢献していくこと」をモットーに、独自の経営戦略とM&Aを用いた経営手法で成長を続けてきた会社です。全国8地域の事業基盤と、約260社以上のグループ会社からなる多様性を大きな強みとし、日々の暮らしや産業に欠かせない役割を担っています。



創 業 1929年9月24日
本 社 大阪市中央区南船場2丁目12番8号
エア・ウォータービル
従業員 連結 15,757名/単体 858名
売上高 連結 8,015億円
単体 1,774億円

※2019年6月26日現在

エア・ウォーター株式会社 8つの事業領域

産業ガス 関連事業	ケミカル 関連事業	医療 関連事業	エネルギー 関連事業	農業・食品 関連事業	物流 関連事業	海水 関連事業	その他の 事業
産業ガス、ガス製造装置、ガスアプリケーション、産業機械、エンジニアリング	電子材料、医薬品、中間原料、炭素材料、有機物、キノコ系製品	医療用ガス、医療機器、病院設備工事、病院サービス、在宅福祉サービス、衛生材料、注射針、歯科	LPガス、灯油、天然ガス、LPガス関連機器、LNG関連機器	冷凍食品、ハム・ソーセージ、スイーツ、果実・野菜系飲料、農産品、農産加工品、農業機械	物流サービス、倉庫・流通加工サービス、特殊車両製造	塩、吸着剤、水処理、海苔製品、電力、マグネシア化合物	エアゾール、情報電子材料、金属表面処理、ゴムオリング、建築材料、バイオマス発電



エア・ウォーター株式会社の農業・食品関連事業

農業・食品関連事業売り上げは全体の17%を占める

液体窒素を使った冷凍農産物の製造・販売をきっかけに食品事業を開始しました。2002年には、ハム・ソーセージ事業に着手し、その後、農業、青果物流通加工・小売、果実・野菜飲料製造、スイーツの製造販売など、事業を拡大していきました。栽培・調達から製造・加工・販売までをグループ内で一貫して展開しており、唯一無二のバリューチェーンを構築しています。

※2019年3月期（日本基準）

PICK UP

農地所有適格法人㈱エア・ウォーター農園を設立、生鮮野菜の栽培をスタート

2009年に㈱エア・ウォーター農園を設立し、農業事業に本格参入しました。国内最大級のガラスハウスを備えた「千歳農場」と、北アルプスに囲まれた「安曇野菜園」の2箇所、トマトやレタスを栽培しています。温室内に炭酸ガスを供給する仕組みや、生育環境をコントロールするシステムを用い、高品質野菜の安定供給を実現しています。



デリカフーズグループとの提携

原料調達の協業



生産農家の減少や、異常気象の頻発により、原料野菜の調達先確保が難しくなっています。尚社の契約農家、調達ルートを共有し、原料調達をスムーズに行います。

インフラ事業の協業



全国各地に広がる尚社の物流ネットワーク、集荷・施設を活用したインフラ事業の協業により、高品質な青果物の、広い地域への安定供給を実現いたします。

外食・中食産業拡大



デリカフーズのカット野菜・加熱野菜、エア・ウォーターの冷凍野菜を相互販売し、尚社の外食・中食産業への販売拡大につなげてまいります。

共同研究・共同開発



青果物の価値創造、加工・鮮度保持技術などに関する、共同研究および共同開発を行うことで、青果物の新たな魅力を採り、価値向上につなげてまいります。

CSR活動状況

▶ CO²削減のとりくみ

デリカフーズ(株)では、環境大臣から二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金を受け、CO²削減に取り組んでおります。「排水未利用冷熱を活用した温度差エネルギー冷却システム導入事業」では、工場内から排出される水の冷熱を利用し、チラー(液体を冷やす装置)にかかる電力を減らすことで、省エネ化やコスト削減を実現しています。当事業による平成30年度のCO²削減量は、神奈川事業所で95.16トン、東京FSセンターで76.57トンの、合計171.73トンとなりました。今後は、他工場へのシステム導入を行うことで、さらなるCO²削減に寄与できると考えております。

▶ 「朝市」で地域に貢献

デリカフーズ(株)では、3か月に1度、地域貢献活動の一環として「朝市」を開催しております。会場は主に、当社の駐車場や地域の公園で、入社1～3年目の若手社員が中心となり、野菜の調達から、集客のためのビラ配り、当日の店頭販売や会計まで、すべての工程を自分たちの手で行なっています。

また、地元の商店会の方々と協力し、地域イベントのひとつとして出店することもあります。旬の野菜をお値打ち価格で販売しているということもあり、毎回、多くの地域住民の方に足を運んでいただいております。売上金は地元自治体に全額寄付しており、地域の発展に奉仕しております。



東京FSセンター



神奈川事業所

..... CO²排出 1キロってどのくらい?



自動車で3.6km
走った時の排気量



テレビを20時間
見続けた時



エアコンを4時間
使用した時



人が1日に吐き出す
CO²の量



アスリート応援

デリカフーズ㈱西東京事業所の製造部で働く、船見 真奈さんは、アーチェリー競技でのオリンピック日本代表を目指し、日々、練習に励んでいます。2018年5月に行われた「第47回全日本フィールドアーチェリー選手権大会(リカブ女子)」では優勝を果たしました。デリカフーズグループでは、ユニフォームの提供などを行い、全力で応援しています。



現在、衛生品質トレーナーとして働いています(左写真/下段中央)。

新卒採用

デリカフーズグループでは、卒業した大学や学部ではなく、「人」としての魅力を評価する新卒採用を行っております。会社説明会では、代表取締役社長の大崎が自ら登壇し、今後の展望や就活生へのメッセージを送っています。売り手市場と言われる中でも、毎年順調に採用数を伸ばしており、グループの発展に貢献しています。



ウェルネスフードジャパン 講演

自然食品・健康食品・サプリメント・健康食品素材に関する日本最大級の専門展、「ウェルネスフードジャパン」が7月3日から3日間、開催されました。デリカフーズグループが全国の生産者の方々とともに、野菜の新たな価値の創出に取り組む「Farm to Wellness倶楽部」も、同イベントで2日間にわたり講演を行いました。野菜の分析や食品表示の話に、多くの参加者が耳を傾けてくださり、青果物業界の価値向上に貢献できました。



デザイナーフーズ㈱と㈱メディカル青果物研究所で参加いたしました。

過去新卒採用人数



Delica Foods
Group

